斜面都市のくらし～空き家の活用法～

１．はじめに

長崎市は斜面都市である。

傾斜度が 7～8℃の斜面地は通常、日照や通風の点で平地よりも宅地として最適とされている。しかし長崎市の場合は傾斜度が 15℃以上の所まで市街地が形成されており、市内の多くが斜面地とされている。

長崎の数少ない平坦地は工業や商業施設の用途に占められ、斜面地は高度経済成長期に居住の場として求められた。そうした結果、現在の斜面都市が形成されている。

長崎市の斜面地へ足を運ぶと、独特の空気、狭道の面白さ、心地よい風、市内を見渡せる絶景など非常に素敵な空間を体験できる。

しかし斜面地に住むということは多くのリスクを抱えなければならないのが現状である。

●斜面地に住む上で挙げられるいくつかの問題点

１．ゴミ捨て、ゴミ回収（莫大な人件費）
２．救急・防災などの車両が入れない
３．公共交通機関の空白
４．のら猫被害
５．空き家・荒れ地が多い　　etc…

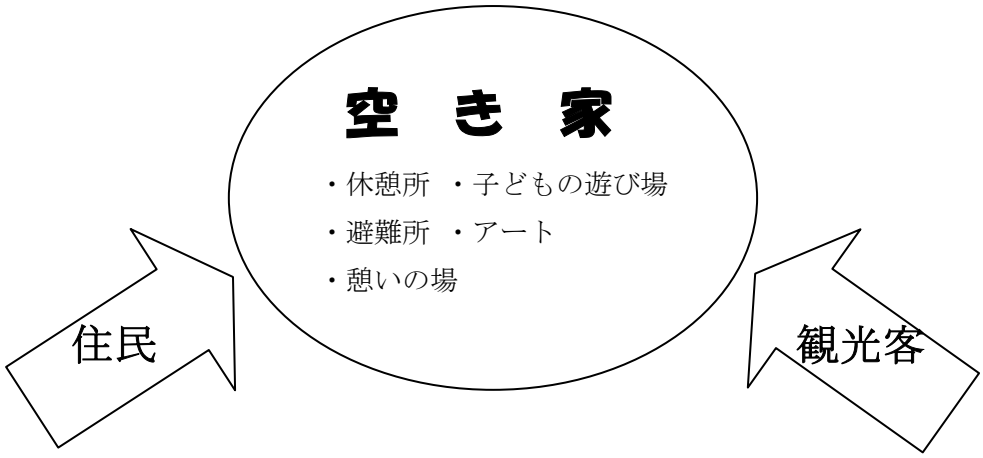
長崎市の「住みにくい斜面都市」をどうすれば「住みよい斜面都市」にできるかということを一番に考えて、私は上記にある『空き家・荒れ地が多い』という問題点をキーワードにまちづくりの提案をおこないたいと思う。

２．空き家の活用

現在の状況として、長崎市の空き家戸数と空き家率の推移は上昇傾向であり、平成15年度の空き家率13.7%（空き家数25,670戸）は、県の平均より1.5%程度上回っている。こうしたデータと、実際に歩いて回った調査の結果、斜面地の空き家は非常に多く、また廃墟が不気味であるという住民の声も聞いた。

特に高齢者にとって、足腰の自由が利かない・救急時に助けを呼びにくいなどの問題が見られるので、多くの方が下の平坦地に移り住む。

そこで多くの方に斜面地に残ってもらい、また移住の場所として考えてもらえるよう斜面地の空き家を、以下のような住民のコミュニティの場に活用するという提案をする。



●休憩所・・・長崎は急な斜面を上がるのに休憩の椅子が設けられている。
空き家も休憩所として利用できるようにする。

●避難所・・・長崎は防災の面で多くの不安があるため、避難場所としての利用。
消防器具などがあるとよい。

●憩いの場・・・観光客と住民のコミュニケーションの場としての提供。
観光者に長崎移住を考えてもらえるようなきっかけを作る。
また住民同士がくつろいで談話する場としての提供。

●子どもの遊び場・・・高齢者だけでなく若者世代にとっても住みやすいように、子どもの遊び場を提供。近所にあれば目が届き、声が聞こえるので安全である。

●アート・・・アート集団に格安で製作場として提供する。住民とコミュニケーションがとれ、斜面地は静かな居住地なので製作の場として最適である。また地区に活気がつくと考えられる。